

技報創刊にあたり

代表取締役会長

塚田 浩

山陽特殊製鋼技報の創刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は昨年創業60周年を迎えることができました。これは偏に需要家各位のご支援とご指導によるものと深く感謝しております。

さて日本経済は家電製品、軽自動車など一部業界に回復の兆しが見られるものの鉄鋼業界では粗鋼生産が94年度も90～92百万トンと予想され、92年度以降3年連続1億トン割れが続いております。また今後とも需要先の海外生産に伴う需要の減少傾向が予想され、現在戦後最も長く深刻な平成不況の真っ只中にあります。当社もこの洗礼を免れることはできず、苦況を乗り越え引き続き素材供給の責を果たすため社を挙げてリストラ計画の完全実施に邁進しております。

当社は経営の基本理念を顧客指向・技術指向とし、研究開発主導型企業を目指して日夜研究開発に邁進しております。創業当初から生産・研究を続けてまいりました軸受鋼につきましては、昭和39年に業界で最初に脱ガスを導入して寿命の大幅な改善に貢献したのをはじめ、昭和57年には90トン電気炉—取鍋精錬—RH脱ガス—垂直型連続鑄造からなる生産ラインを完成させ、さらに寿命の向上に貢献いたしました。その後、偏心炉底出鋼の採用などさらに研究開発を続けた結果、最近SNRP操業法（SANYO NEW REFINING PROCESS）を確立し世界最高の寿命を有する量産軸受鋼の生産が可能となりました。この技術は他の鋼種にも応用できるものであり、酸素含有量の低いことを特長とする工具鋼、肌焼鋼、炭素鋼、ステンレス鋼など当社製品の品質向上に大いに役立っており、当社躍進の原動力となるとともに、機械装置の寿命向上と信頼性向上など産業界に貢献しております。さらに高級ガスアトマイズ粉末や軸受用素形材などの分野におきましても鋭意研究を行っています。

現在素材産業は内には需要の減退、外からは円高による輸入鋼材、輸入部品の浸透など企業存亡の危機に晒されておりますが、この機会を事業発展の好機ととらえ、スリムで個性に富んだ企業の構築を目指してまいり所存です。またこれまでに蓄積してきた技術を基礎として21世紀に向けて新しい技術開発目標を選定し、他の追随を許さない技術と材料特性を鮮明にした魅力ある商品開発等により、益々複雑化する国内外の需要先の要請にお応えしていく所存です。

この度当社のR&Dの一端を紹介させて頂く技報が需要家各位のお役に立つことを祈念いたしますとともに、今後とも忌憚のないご意見となお一層のご支援ご鞭撻をたまわりますようよろしくお願い申し上げます。